

# 五十川周圭

いかがわ・しゅうけい

医師、五十川基の父

## 経歴

生: 文政元年(1818年)

没: 弘化2年(1845年)8月、享年28歳、実相寺に葬る

—	—	篠崎小竹の塾に入る
天保のはじめ(1830年ごろ)	13歳ごろ	坪井信道(つばい・しんどう)の門に入る
天保8年(1837年)	20歳	家督を嗣ぐ
—	—	京都に上り日野眞哉に蘭方を学ぶ
—	—	福山に帰り本科を担当す
天保15年(1844年)9月6日	27歳	五十川基生れる

## 生い立ちと学業、業績

### 生い立ちと学業

名は修敬・修得・修徳、諱は則義、字は周圭、通称は修敬・修得。号は葦水・諫山。

五十川蓑洲(いかがわ・さしゅう)の長男。

江木鰐水の義兄(実の妹が江木鰐水の後妻)。

五十川左武郎(訊堂)の実兄に当る。

葦水は初め篠崎小竹の塾に入って儒学を学ぶ。

その後、父五十川篤悦の意をうけて蘭方修業をこころざし、天保のはじめ江戸の坪井信道(つばい・しんどう)の門に入って、もっぱら蘭医書を読破した。

当時の交友記録は残っていないが、同じ頃、坪井門下には、緒方洪庵・寺地強平が在学していた。

### 家業と業績

天保8年(1837年)に家督を嗣ぐ。

のち、更に京都に上り日野眞哉に蘭方を学び、傍ら産科を研究し、福山に帰り本科を担当す。

性格は儉素にして学を好んだ。  
誠之館が火事の時には、四書の読書本を多数献納した。  
藩士子弟はこれらの書を大いに活用したという。

訳書『環海紀程』二冊がある。  
さらに産科医書の翻訳を志したが、それも達成できない間に亡くなった。

時に弘化2年(1845年)8月、享年28歳の若さであった。  
実相寺東口上り立ての五十川家墓地に葬る。  
碑文は篠崎小竹の撰。

周圭は五十川基の父で、弘化2年(1845年)に歿した時、基は2歳であった。

出典1:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、73頁、福山市立福山城博物館刊、1996年4月6日

出典2:『福山藩の文人誌』、204頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会刊、1988年7月27日

出典3:『郷賢録』、32頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会刊、平成12年10月1日

出典4:『福山学生会雑誌(第53号)』、附6、「五十川敬甫墓表」、濱野知三郎著、福山学生会事務所編刊、大正7年7月3日

出典5:『研究紀要(第22号)』、19頁、「鰐水江木先生碑おぼえ書」、和田嘉郎著、広島県高等学校社会科教育研究協議会編刊、1986年

2006年2月22日更新:経歴・本文●2006年6月14日更新:タイトル●2007年1月18日更新:経歴・本文●2008年2月14日更新:本文●2010年3月30日更新:本文・出典●2013年10月23日更新:本文・出典●